

「癒しと安らぎの環境」フォーラム 2023

表彰式・コンサート レポート



竹田寛氏
(桑名市総合医療センター)



吉村泰典氏

上:「癒しと安らぎの環境賞2023」受賞者(前列)左より 室久俊光氏(足利赤十字病院)、志水秀行氏(慶應義塾大学病院)、新村友季子氏(にいむら病院)、程塚明氏(平成横浜病院) 理事(後列)左より 尾尻佳津典、幸田正孝氏、原田義昭氏、三ッ林裕巳氏、門脇孝氏、長澤泰氏、徐志敏氏、麻倉未稀氏
下:「集中医療大賞2023」「集中医療大賞・高久史磨特別賞2023」受賞者(前列)左より、尾身茂氏、草野敏臣氏、堤治氏、中林正雄氏、今明秀氏

2023年12月17日(日)、東京都港区のサントリーホール・大ホールに於いて、「癒しと安らぎの環境」フォーラムが開催され、永く社会に多大な貢献をした医療従事者を顕彰する「集中医療大賞2023」と、美術や音楽、癒やしの活動を積極的に取り入れ、心地良い空間作りに取り組む医療施設を顕彰する「癒しと安らぎの環境賞2023」の表彰式、又、併せて「癒しと安らぎの環境」コンサート2023が行われた。式典の冒頭では、本フォーラムの創設時に実行委員長を務めたNPO法人卒後臨床研修評価機構理事長の岩崎榮氏と理事を務めた作家の海野弘氏がこの1年の内に鬼籍に入った事を受け、生前の貢献に敬意を表して黙祷が捧げられた。

表彰式では、主催である集中出版代表の尾尻佳津

典が最初に挨拶に立ち、別室に於いて授賞式が行われた事を報告すると共に「20回目となる本フォーラムが無事に開催出来るのは、サントリーホールディングスを始め、多くの企業や医療関係者の皆様方のご支援と厚く御礼申し上げます。又、厚生労働省、日本看護協会、日本医師会、毎日新聞社、各国駐日大使館等、多くのご後援を頂く事が出来た事も、大変嬉しく、励みにもなります」と謝辞を述べた。そして、新型コロナウイルス感染症のパンデミック下で世界の医療が混沌とする中であっても日本は高度な医療の提供により多くの命が救われ、海外からも称賛された事に対し、「日々医療の最前線で働く医師、看護師、医療関係者の皆様のご努力の賜物」と敬意を表した後、冒頭の黙祷に触れ、故人の尽力について感謝と哀悼の言葉を述べた。

また、スタッフへの労いの言葉には会場から大きな拍手が送られた。最後に、数多くの大使館関係者が来場している事から、英語でもフォーラムの成り立ちや活動の説明と謝意のスピーチを行った。

次に、実行委員会理事を代表し、3名の理事が挨拶に立った。最初に登壇したのは、23年秋の叙勲で旭日大授章を受章し、同じく集中出版が主催している「日本の医療の未来を考える会」の最高顧問を務める、元環境大臣で弁護士の原田義昭氏で、「2023年も間もなく暮れようとしていますが、来場の皆様方もこの1年をしっかりと振り返りながら、新年が素晴らしい年になるよう心からお祈りしています。20回目を迎えた本フォーラムは大変な活動ですが、尾尻代表にはしっかりとした指導力を発揮して頂いており、『集中医療大賞』と『癒しと安らぎの環境賞』を素晴らしい音楽と共にお祝いする事も、今では社会的に大変大きな評価を頂けるようになりました。関係者の皆様、更には受賞者の皆様の努力とご活躍を称えたいと思います」とした。

続いて、「日本の医療の未来を考える会」の国会議員団代表を務める、衆議院議員で医師でもある三ッ林裕巳氏が、「当会ではこれ迄様々な有識者をお招きし、地域医療や、これからの高度高齢化社会での医療はどう在るべきか、又、医療のデジタル化や感染症対策はどう在るべきか等を議論して参りました。そしてコロナ禍の3年間、医療関係者の皆様の努力と献身的な活動、及び国民の皆様の協力によって充実した医療体制が維持出来た事に心から感謝します」と述べた。その上で、「病院にアートと音楽がある事は、不安や自分の病気との向き合い方を和らげる上でもとても重要な事だと思います。今後も『癒しと安らぎの環境』フォーラムが、皆様の応援を頂いて末永く続く事を祈念致します」と述べた。

最後に日本医学会第8代会長に就任した虎の門病院院長の門脇孝氏が挨拶に立ち、「医学医療の課題について、根本的な原因を解決する為には原理原則に則らなければなりません。その原理原則とは、言う迄もなく患者さんが癒やしや安らぎを得る事です。これは、別の言葉で言えば、病気の予防と治療やケアという事になり、医療の究極的な目標になるのではないのでしょうか。これから行われるコンサートも含め、『癒しと安らぎの環境』フォーラムが、この1年間に起こった



様々な事についてゆったりとした気持ちで振り返り、新年に繋げて行く、そういう素晴らしい場になる事を祈念致します」と、前会長の故・門田守人氏の言葉も一部引用しながら締め括った。

他、壇上では列席した実行委員会理事として、幸田正孝氏(元厚生事務次官、一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構顧問)、長澤泰氏(国立大学法人東京大学名誉教授、学校法人工学院大学名誉教授、一般財団法人ハビネスライフ財団理事長)、徐志敏氏(日本正大光明企業合同会社社長)、麻倉未稀氏(歌手)が紹介された。その後、「癒しと安らぎの環境賞2023」受賞者と「集中医療大賞2023」「集中医療大賞・高久史磨特別賞2023」受賞者が、それぞれ実行委員会理事との記念撮影を行い、表彰式を終了した。

当フォーラムの理事を務める
University Cambridge Japan Consulting Supervisor
共同代表 Joseph Ibanez氏からのメッセージ

I am amazed how time passes, It has already been a year since my last speech here. COVID-19 has put so many healthcare professionals under unprecedented strains and pressure due to this unexpected health circumstances. It was a challenge for all the healthcare professionals in every corners of the world. I sincerely appreciate and recognise their efforts and humanity. I salute the winners of this year's Shuchu Care Grand Prize. It is just as important that hospitals and care homes are always a pleasant environment as it is the quality of the healthcare and humane all being that is provided. In the United Kingdom, many people volunteer for Art in Hospital activities. I am pleased to see that this wonderful activity is spreading in Japan. I would like to congratulate this year's Healing and Comforting Environments winners.

Joseph Ibanez
Co-president

University Cambridge Japan Consulting Supervisor



集中医療大賞 2023

世界に誇る高度な医療を提供している日本。全国各地で必要な時に受診出来る事が当たり前と思える日本の医療は、日夜、医師を始めとする医療従事者の献身的な働きによるものです。私達は、これをきちんと認識し感謝の意を込めて「集中医療大賞」を設け、顕彰しています。又、医療の確保が困難なへき地医療の質の向上の為に、長きに亘り献身的に貢献されている医療従事者への敬意を込め「集中医療大賞・高久史磨特別賞」を同時に顕彰しています。

開催：2023年12月17日(日) 会場：サントリーホール「大ホール」



尾身 茂

公益財団法人結核予防会 理事長

感染症の専門家として、WHOアジア局長就任時にはポリオ根絶を指揮。又、SARSや、COVID-19のパンデミック下での陣頭指揮と医療への多大な貢献を顕彰。



受賞の理由が、30年以上の感染症対策への貢献とお聞きしました。ポリオやSARS、新型コロナウイルスの感染症対策に於いては、各国政府を始め、地域の一般ボランティアや医療関係者、国際的な協力団体等が、1つの目的の為に力を合わせた結果、初めて成功した

訳です。今回の賞は、そういう人達のお陰で、言い換えればその代表として受賞させて頂くという事で、関係者の方達の努力が認められた証だと思っています。新型コロナウイルス感染症に関しては、今年9月に3年半の活動の記録『1100日間の葛藤』を上梓し、現在は日本で最も古いNGOである「結核予防会」の責任者として、結核等の呼吸器感染が最もパンデミックを起し易い事への対策に当たっています。新型コロナウイルスの流行で分かった様に、パンデミックは社会経済の発展をも揺るがす脅威で、今後も無くなることは無いと思います。そういった意味からも、『集中』にはこれ迄以上に、人々が知りたいという情報を正確に伝えるだけではなく、より分かり易く発信・配信して頂ければと期待しています。

草野 敏臣

医療法人社団ミッドタウンクリニック 理事長

外科医として肝、胆、膵領域がんの外科治療で優れた成績を残す。日本初のPETがん検診を施行した医療法人の理事長として、特にがん検診診療で高度医療に貢献した事を顕彰。



心臓内まで進展した進行肝細胞がん患者を2003年に執刀し、その患者が術後15年生存した経験を、手術術式の工夫と共に報告したところ、昨年英文誌に掲載されました。文献上で検索した限り、同様な進行肝がん切除症例の生存期間としては最長例でした。その後、

現在の医療法人の検診事業に携わった結果、がん治療は、未病の状態、或いは早期に診断する事が出来れば、より多くの患者を助けられるという事を思い知らされました。年齢的にもボチボチ医師生活を卒業する事が脳裏を過る様になりましたが、健康でいられる内は、何らかの形で色々な病との闘いを続けたいと思っている今日この頃です。実は、『集中』の尾尻代表とは40年に亘る旧知の間柄です。『集中』は、医療と政治の異なる方向から、医療行政の背後に潜んでいる問題を、普通の雑誌では中々斬り込めない鋭い切り口で分析されています。これからは厳しい取材を通じ、私達にその問題点を明らかにして頂ける事を切に希望します。

堤 治

医療法人財団順和会 山王病院 名誉病院長

生殖医療全般を担い、不妊治療の専門家として多数の論文を発表。女性医療に関する講演を通じて啓発活動を続ける等、少子化対策に大きく貢献した事を顕彰。



不妊治療への長年の尽力が認められ「集中医療大賞」を受賞出来た事は大変光栄です。世界初の体外受精児の誕生以降、この分野の研究と知識普及に力を注いで来ました。現在、日本では出生児の約11人に1人が体外受精で誕生しており、進行する少子化の中で、この治療

中林 正雄

社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 総合母子保健センター愛育病院 センター所長

「糖尿病から母子を守る」という理念の下、献血者全員の糖尿病スクリーニングを導入する等、妊産婦の安全確保に尽力。医療を通じて少子化対策に多大な貢献をした事を顕彰。



私達医療経営者にとって、社会情勢や政治、行政の動向は、経営方針を決定する上で欠かせない情報です。『集中』から提供される幅広い情報には深く感謝しており、羅針盤として毎回楽しみに読んでおります。この度の受賞は、そうした貴重な情報を基に進められた、

吉村 泰典

学校法人慶應義塾 慶應義塾大学 名誉教授

生殖・周産期医療の専門家として多くの出産に立ち会う。内閣官房参与の重責を担い、妊婦や赤ちゃんに優しい社会作りを通じて少子化対策に大きく貢献した事を顕彰。



『集中』は、医療や政治経済の情報を時宜に適う形で発信されている異彩な雑誌であり、病院経営者の羅針盤とも言うべき役割を果たしています。「私と医療」や「私の海外留学見聞録」等の特集により、若い医師は自ずと先人の教えに触れる事が出来ます。本誌は、医療

法の役割は重要性を増しています。この点について、菅義偉・前首相とも対話の機会を持ち、長年の課題であった保険適用が実現されました。しかし、女性のキャリア志向が高まる現代に於いて、結婚や出産が後回しにされ易い風潮です。このような状況の中、卵子凍結を含むプレコンセプションケアの普及が益々重要となります。若い世代への正しい情報の提供と、40歳以上の不妊治療の成果を向上させる事にこれからの人生を捧げたいと思っており、今回の受賞を機に更なる進展が有る事を願っています。『集中』は尾尻さんの革新的な発想と想像力を備えた視点から医学・医療分野へ真摯に向き合い、現代日本の医療課題を多角的に浮き彫りにしており、非常に素晴らしい取り組みだと感じています。

私達の努力が認められた事を示しており、大変光栄に思っています。愛育病院では、医療の質と患者サービスの向上を実現させる為に、規模を拡大する必要性を感じ、新病院の設立に至りました。現在は年間約3000件の出産を取り扱う迄に成長しています。更に、産後ケアの充実の為、旧病院の跡地に「愛育産後ケア子育てステーション」を開設しました。施設の開設後、僅かな期間で満床に達した事は、これらの施設への高いニーズを示しています。国内各地からの見学者を歓迎し、研修を提供しており、私達のモデルが全国に普及する事を目指しています。今回の「集中医療大賞」受賞により、私達の活動が少子化問題に対する1つの解決策として、広く認識される事を願っています。

や医学を今日的視座から見直し、日本の医療の将来に向けてのdriving forceになる企画が用意されています。特に2011年10月より、“産婦人科医療「再生」への胎動”と題した9回の特集を準備し、窮地にあった日本医療の中でも、周産期医療の厳しさを取り上げて頂きました。それ迄、産婦人科医の学術団体としての性格が強かった日本産科婦人科学会に、社会に於ける存在意義と、我が国の産婦人科医療の進むべき道を問い直して下さいました。今回の受賞は、福島県立大野病院事件以来、危機的状況にあった我が国の周産期医療の提供体制を再構築した学会に与えられたものと、心より感謝申し上げます。孜孜としてご尽力された会員と共に喜びを分かち合いたいと存じます。

集中医療大賞・高久史磨特別賞 2023

今明秀

八戸市立市民病院 事業管理者

僻地医療に40年の医師人生を捧げ、現地に必要な救急医療を習得し、技術を後進に指導。八戸市民に期待される病院長としての多大な医療貢献を顕彰。



僻地の病院や診療所に携わっていた事が評価された様ですが、自治医科大学の大先輩である尾身先生と、同じ日に同じ空間で受賞させて頂くのは、とても光栄で誇らしいです。僻地の施設では、医師1人がほぼ全ての病気を診察・治療しなければなりません。しかし、

交通機関の発達等で住民の意識も変わり、設備の整った病院での治療を希望する様になって来ました。そこで今取り組んでいるのが、僻地で危機的状況の患者さんが発生した時に、救命救急センターからヘリコプターを飛ばしたりドクターカーを出勤させたりして、患者さんを医師が迎えに行き、加療しながら病院に搬送する方法で、新しい僻地の救急医療になっています。これによって、現地での対応と搬送対応が分かり易く区別出来る様になりました。ところが、医師や看護師不足が深刻で、僻地医療の継続性が問題になっています。医学に囚われる事なく、政治や法律等、医療を取り巻く課題に取り組んでいる『集中』には、是非、僻地医療にも目を向けて頂ける様に願いたいと思います。

癒しと安らぎの環境賞

この賞は、医療施設にアート(美術や音楽、癒やしの活動等)を取り入れ、人や環境に配慮する事で、その施設が癒やしと安らぎの場になってほしいと願い、2002年に日野原重明先生を名誉会長、岩崎榮先生を会長として立ち上げました。この趣旨に合う癒やしの活動に熱心に取り組む医療機関にこの賞を贈呈し顕彰しています。

日本赤十字社 栃木県支部 足利赤十字病院

患者の負担を軽減するワンストップ外来の導入と、全病床個室化を実現。クリーンエネルギーを積極的に採用し、地域に開かれた癒やしの病院を作り上げた活動を顕彰。



非常に歴史有る賞を頂き、光栄に思っています。癒やしと安らぎを提供する取り組みとして、一般病院でありながら全室個室を実現し、患者さんのプライバシーに配慮した空間を作る事が出来ました。病室の稼働率は22年

が96.0%、21年は96.9%を達成しています。又、当院は省エネ・省CO₂の「グリーンホスピタル」でもあります。近くの渡良瀬川から井戸を2本取り、その水を冬は暖房、夏は冷房として利用する事で、エネルギー消費量を従来の約半分に減らしました。電気は太陽光と風力発電を採用しています。



室久 俊光・院長

更に、病院が栃木県と群馬県の境に位置している為、両県の2回線の電力を安定して受電可能です。万が一の非常発電装置でも、全ての電力を賄う事が出来ます。建築には緑と光を取り入れ、絵画作品等も多く飾っています。ワンストップ外来では、受付から会計迄1カ所に対応出来、患者さんもスタッフからも分かり易いと評判です。昨今、デジタル化が進んでいますので、今後はITの導入を進めて行きたいと思っています。『集中』では様々な医療課題を取り上げていますので、今後は是非、その時代に沿った発信をして頂きたいと思います。

地方独立行政法人 桑名市総合医療センター

地域医療を担う中核病院。患者に癒やしを提供するべく美術品展示や管理栄養士による食事指導を行う他、院内保育園の設置など職場環境拡充にも取り組む姿勢を顕彰。



名誉有る賞を頂きまして本当に有難うございます。心より御礼申し上げます。当センターは2012(平成24)年4月、公立の桑名市民病院と民間2病院(平田循環器病院と山本総合病院)の統合により誕生し、6年後の18(平

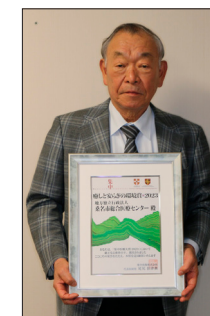
慶應義塾大学病院

「慶應義塾の杜」をコンセプトとした癒やしの空間作りと、「クラスター診療」を採用し、連携促進や人材育成、啓発を行い易い環境を整備した活動に対して顕彰。



医学部開設100年の記念事業として作られた新病院棟をご評価頂き、大変嬉しく思います。当院は臨床研究中核病院、特定機能病院として、患者さん、研究、教育の全てにしっかりと取り組む必要が有ります。その中で、安

成30)年5月には待望の新病棟が完成しました。その際、平田循環器病院長から絵画約80点をご寄贈頂き、更に地元の方々からのご厚意により20数点の様々な美術品をお譲り頂きました。それらの貴重な作品を、正面ホールや入院棟(9階建)、外来棟(5階建)等の全ての廊下の壁に陳列させて頂いています。絵画は油彩画が中心ですが水彩画も有り、国内外のかなり有名な画家の作品も有ります。又、書や陶芸、民芸品等の作品も有ります。現在私は、当院が年4回発行している患者さん向け情報誌『NEWS』に於きまして、毎号2作品ずつ解説を交えながら紹介させて頂いています。患者さんは、私達の想像を絶する程神経が鋭敏になっておられます。優れた美術や音楽に接する事は、この上ない癒やしと安らぎになります。「病院にこそ優れた芸術作品を……」とは常日頃、私の思っている事でありま



竹田 寛・理事長

らげる良い環境と質の高い安全な医療の提供、更に未来へ羽ばたく医療人の育成を大切にし、様々な学部や職種の連携をコンセプトに新病院を作りしました。正面玄関から新病院棟の端まで南北真っ直ぐにメディカルストリートが通っています。そこに直交する様にホスピタルモール、スタッフモールが



志水 秀行・副病院長

有り、「慶應義塾の杜」をコンセプトに木々や木漏れ日をイメージした癒やしの空間となっています。「クラスター診療」とは、様々な知識やスキルを持ったスペシャリストが集まって1人ひとりの患者さんに適した医療を提供するもので、多職種が力を合わせて取り組んでいます。今後の展望は予防医療を学問として発展させる事です。病気になる前の段階から、診断、治療と、継続してペイシエント・ジャーニーを辿れる様な医療体制を作って参ります。医療DXにも対応し、先進的な取り組みと心の癒やしの両輪で取り組んで行きたいと思っています。

「癒しと安らぎの環境」コンサート 2023

「癒しと安らぎの環境賞」「集中医療大賞」の表彰式後は、一流アーティストによる演奏が行われた。今回は、医療従事者以外に、日頃コンサート会場に足を運ぶ事が難しい疾患を持つ患者や高齢者施設の皆さんにも、素晴らしい音楽に触れて頂く機会となった。



故・日野原重明先生に命名された「癒しと安らぎの環境」フォーラムは、アートや音楽を取り入れる事で医療施設が癒しと安らぎの環境になる事を願い開始した。今回は、1500名以上が来場した。

この「癒しと安らぎの環境」コンサートは、日野原先生が推奨されていた音楽療法の役割を担う意味も持つ。精神障害を持つ患者、がんを患う患者、そして患者の家族等、日頃コンサート会場へ足を運ぶ事を難しく感じている皆さんにも、一流奏者の生演奏を聴く事で癒されて欲しいと願いご招待した。例えば、感動して感情が高まり声を発する患者がいても良いし、子供の患者も親と一緒に音楽を楽しめるという事だ。同コンサートに来場された患者の皆さんから、生演奏の美しい調べに癒やされた、胸が熱くなった、音楽の癒しの力の偉大さを感じた等、沢山の感想が寄せられた。

今回は、ヴァイオリニストの川井郁子さん、ピアノの河原忠之氏、そして当フォーラム理事のテノールの佐野成宏氏と、国内外で活躍し国際的評価も実力も高いトップアーティストにご出演頂いた。ヴァイオリンとテノールのシナジー、3人の息の合った演奏と素晴らしい表現力に、来場者から盛大な拍手が送られた。

独自の表現世界を持つ川井さんは、国内外の主要オーケストラや世界的なアーティストは勿論、ジャンル

を超えたポップアーティストや、バレエ、フィギュアスケートのトップアスリートとも共演している。又、TVやCM、映像音楽等の作曲を手掛け、多彩な才能を發揮する。来場者から多かった感想は、流れるように美しく響き渡る音色、繊細な表現力と高度なテクニック、ヴァイオリンを弾く美しい姿だった。

幅広い音色と繊細な音楽表現に定評が有る河原氏は、日本を代表する歌手が共演者に挙って指名する人気ピアニスト。国内外で活躍中の「太メン」男性オペラ歌手4人のユニット、IL DEVU(イル・デーヴ)のピアノメンバーを務め、指揮者、企画プロデューサーとしても活躍する。情感豊かに、演奏者に寄り添うピアノ伴奏の素晴らしさ、サプライズの独奏「カヴァレリア・ルスティカーナ」への絶賛の声を多数頂いた。

佐野氏は、音楽性豊かな歌唱力と光り輝く声を持つ存在感の在るプリモとして、国内外の第一線で活躍し続けるテノール。艶やか且つ伸びやかでプリリアントな歌声が心地良く心に響いた、テノールの歌声に胸が一杯になった、涙が溢れる様な演奏に心癒やされた、等の感動の声が多かった。

今回も誰でも親しみやすい数々の名曲で構成した。華やかに、そして時に繊細で優しい調べに、会場が笑顔と心温まる感動に包まれた。

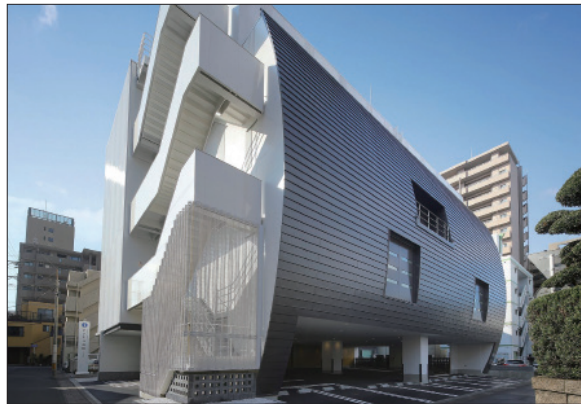
又、このコンサートは前回からチャリティ形式とし、来場者から寄付金を募っている。集まった金額は総額27万5384円で、全額を当フォーラムより日本赤十字社へ送金した。



鈴木 光代さん・MC

医療法人真栄会
にいむら病院

泌尿器科疾患に特化し地域医療に従事する専門病院。先端医療を導入しつつ「癒される病院づくり」を目指し、アートを取り入れた心理的ケアにも取り組む姿勢を顕彰。



九州の最南端の地・鹿児島で、泌尿器科疾患に特化し地域医療に携わって来た「にいむら病院」まで見て下さって、今回の受賞は有難いと思っています。当院は、泌尿器がんの手術治療や抗がん剤治療が出来る専門病

院です。鹿児島県内では初めて手術支援ロボット「ダビンチ」を導入した他、日本で初めての医療機器を導入する等、地方に在りながら中央に負けない先進的な医療に取り組んでいます。私は2017年にスウェーデンのカロリンスカ大学病院へダビンチ手術見学に赴いた事が有ります。その時、病院の中がまるで美術館の様に絵画や美術品が飾ってある事に感銘を受けました。それを切っ掛けに、当院を新しく建て直す際には、アートを取り入れた癒やしの空間に行きたいと考えたのです。手術を行う時には患者さんも不安で一杯です。そこで、手術室まで素敵な空間に出来たらと考えて作りました。特に、増築した「モリス館」には英国人デザイナー、ウィリアム・モリス氏の壁紙や、現代アーティスト、小松美羽氏の絵画を多数展示しています。入院中や外来受診された時でも、リラックスして診察を受ける事が出来ると考えています。



新村 友季子・理事長

医療法人横浜平成会
平成横浜病院

「信頼される優しい医療」を理念とし、医食同源の考えから入院患者の食事に拘る。管理栄養士やシェフによる手作り料理を通じて健康促進に繋げる活動を顕彰。



元々は戦前に開設された伝統有る企業病院をルーツとして、2013年に再出発したのが平成横浜病院です。その際に検診センターもリニューアルしており、施設の中を男女別に分けた他、食事指導にも対応出来る様な施設

に設計しました。毎年1回検査をして終わりという検診を続けるだけでは、健康を維持して長生きする事には繋がっては行かないと考え、当院でリフレッシュしながら健康の事も考えて頂き、健康増進に繋がる施設にしようと、23年には「健康長寿サポート外来」を開設しました。予防医学についても積極的に取り組んでいます。地域密着型の病院を目指している当院では、毎月様に健康教室やセミナーを開講しています。又、医食同源の考えから、入院患者さんの食事には特に気を遣っており、管理栄養士や調理師、専門のシェフによる手作りの料理を提供しています。入院患者さんにも評判は良く、美味しい食事を通じて、是非健康になって頂きたいと考えています。このような施設環境が今回の「癒しと安らぎの環境賞」を受賞した事は、大変嬉しく思っています。『集中』はいつも拝見していますが、これからも読ませて頂きます。



程塚 明・院長



〈演奏曲〉

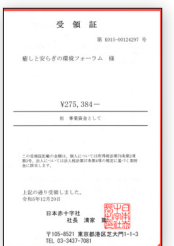
- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| リベルタンゴ (A. ピアソラ作曲) | カヴァレリア・ルスティローナ間奏曲 (P. マスカーニ作曲) |
| 小さな星〜エストレリータ〜 (M. ポンセ作曲) | チャルダッシュ (V. モンティ作曲) |
| 星降る夜 (白鳥) (C. サン・サーンス作曲) | オペラ『トスカ』より 星は光りぬ (G. プッチーニ作曲) |
| ロンドンデリーの歌 (アイルランド民謡) | さやかに星は煌めき〜オーホーリーナイト〜 (A. アダン作曲) |
| ユー・レイズ・ミー・アップ (R. ラヴランド作曲) | アヴェ・マリア (C.F. グノー／J.S. バッハ作曲) |

〈お知らせ〉

「癒しと安らぎの環境」フォーラム表彰式、及び「癒しと安らぎの環境」コンサート2023の様子は、YouTube「集中チャンネル」にて2024年2月上旬より期間限定・無料配信致します。視聴をご希望の方は右下のQRコードからチャンネル登録を是非よろしくお願い致します。



@SHUCHUchannel



今年も集まった金額を全額日本赤十字社に寄付



【主催】「癒しと安らぎの環境」フォーラム実行委員会

【共催】「日本の医療の未来を考える会」/ University Cambridge Japan Consulting Supervisor

【後援】厚生労働省/毎日新聞社/(一社)全国公私病院連盟/(公社)全国国民健康保険診療施設協議会/(公社)全国自治体病院協議会/(公社)全日本病院協会/(特非)地域医療・介護研究会 JAPAN/(公社)東京都医師会/(公社)日本医師会/(一社)日本音楽療法学会/(一社)日本介護事業連合会/(公社)日本看護協会/(公社)日本産婦人科医会/(公社)日本歯科医師会/(一社)日本病院会/(一社)日本病院薬剤師会/(医)輝生会初台リハビリテーション病院/(公財)結核予防会複十字病院/(国研)国立精神・神経医療研究センター/(医)直源会相模原南病院・相模原南病院介護医療院/市立芦屋病院/(医)西福岡病院/日本赤十字社古河赤十字病院/(一財)脳神経疾患研究所附属総合南東北病院/(宗)立正佼成会附属佼成病院/ウクライナ大使館/コロンビア大使館/スーダン共和国大使館/スロバキア共和国/セーシェル共和国名誉総領事館/中華人民共和国大使館/ドミニカ共和国大使館/東ティモール大使館/ボツワナ大使館/ポルトガル大使館/ニカラグア大使館/マリ共和国大使館/ミャンマー連邦共和国大使館/モルディブ共和国大使館/モロッコ王国大使館/ヨルダン大使館

【特別協賛】サントリーホールディングス株式会社

【協賛】MHDモエ ヘネシー ディアジオ株式会社/MBM 株式会社/株式会社集中メディプロ/デル株式会社/日本アイ・ビー・エム株式会社